

Microsoft Azure vs Amazon Web Services

徹底比較

～システム基盤にAzureを選択する理由～

(2020年10月更新版)

SB C&S株式会社
Azure相談センター



※本資料記載の情報は2020年10月時点での情報に基づいています。

■ Microsoft Azure とは

Microsoft Azure(Azure) は、マイクロソフトが提供する、パブリッククラウドプラットフォーム。正式サービスの開始は、2010年1月（2014年3月に Windows Azure から Microsoft Azure へ改称）。主要なサービスとしては、IaaS の Azure Virtual Machines (Azure VM) と PaaS の Azure App Service があるが、オンプレミスやハイブリッドクラウドにも対応した各種クラウドサービスを提供する。

Windows、.NET、Hyper-V などオンプレミスと共通のテクノロジーの採用、Visual Studio 開発ツールとの統合。Office 365、Microsoft Intune などの同社の SaaS との連携が強み。Linux やオープンソースソフトウェア (OSS) への対応にも積極的。

→ <https://azure.microsoft.com/ja-jp/>

■ Amazon Web Services とは

Amazon Web Services (AWS) は、Amazon.com が提供するパブリッククラウドコンピューティングプラットフォーム。正式サービスの開始は、2006年7月（Amazon Web Services 社を設立）。主要なサービスとしては、IaaS の Amazon Elastic Compute Cloud (EC2)、PaaS の Amazon Elastic Beanstalk などがある。

AWS の歴史は長く、他社クラウドサービスプロバイダーの猛追を受けながらも、現在でもクラウド市場のリーダー的存在であり、トップシェアを維持している。

→ <http://aws.amazon.com/jp/>

☰ 目次

● ポジション ● データセンター	P.2
● 性能 ● 耐障害性・可用性	P.3～4
● SLA ● コンプライアンス	P.5
● 機能	P.6～8
● 購入・決済 ● 試用・評価	P.8
● サポート	P.9
● コスト比較	P.10
● Azure vs AWS比較表 ● まとめ ● 問い合わせ先	P.11

🌐 ポジション

■ 世界市場・・・Amazonとマイクロソフトがクラウド市場を牽引

AWSはクラウド市場の成長率と並行し33%のトップシェアを維持。2位のマイクロソフトは市場の成長率を上回る前年比3%増で18%のシェアを獲得。この2社で世界市場の過半数を占めているが、Googleなど追従する他3社の成長率はさらに高く50%以上の収益増となっている。市場全体の成長率は37%と以前高く、今後もAmazon、マイクロソフトの大手2社のシェア争いに加え、Googleなど他社の成長により市場のさらなる拡大が見込まれる。

→ Synergy Research Group「Incremental Growth in Cloud Spending Hits a New High while Amazon and Microsoft Maintain a Clear Lead」(<https://www.srgresearch.com/articles/incremental-growth-cloud-spending-hits-new-high-while-amazon-and-microsoft-maintain-clear-lead-reno-nv-february-4-2020>)

■ 国内市場・・・PaaSでのAzureのシェアが急伸び AWSを猛追

国内クラウド市場は前年比2割増の2.4兆円規模に。IaaS/PaaS/SaaSを合わせたパブリッククラウドはAWSの利用が引き続きトップとなったが、PaaSにおける利用率はAWSが横ばいであるのに対し、Azureは数値を伸ばしてAWSとの差が5.6ポイント縮まっている。IaaSにおいてはAWS、Azure、Googleというシェアの順は変わらないが、3社とも利用率を伸ばした結果AWSは50%を超えた。従業員規模に関わらず7割を超える企業が新規システム構築に何らかの形でクラウドを利用すると表明しており、複数のパブリッククラウドをそれぞれの特徴に合わせて使い分けるマルチクラウド化の傾向がある。新型コロナが促す働き方改革がクラウド市場成長の原動力となることは鮮明で、特にSaaSではWeb会議の導入・増強が顕著になっている。

→ MM総研「国内クラウド市場は2024年に5兆円超え」(<https://www.m2ri.jp/news/detail.html?id=434>)

✓ マイクロソフトは首位AWSとの差を国内外で縮小している。

🌐 データセンター

■ Azure は、全世界 60以上のリージョン、国内 2 リージョン

各リージョンのデータセンターには、インスタンスの配置先として、同じ電源やスイッチを有する「障害ドメイン」が複数あり、各リージョンは同一地域内（概ね 300 マイル離れた場所）にリージョンペアを持つ。

日本国内の 2 リージョン（東日本と西日本のペア）は、2014年2月に開設。

■ AWS は、全世界 24 リージョン、国内 2 リージョン

AWSリージョンには低遅延、高いスループット、冗長構成ネットワークを持ち複数の物理的に独立・隔離された「アベイラビリティゾーン（AZ）」がある。東京リージョンは2011年3月に、そのバックアップおよびDRを目的とした大阪ローカルリージョンを2018年2月に開設した。2021年にローカルではない新しい大阪リージョンを開設予定。

✓ Azureは60以上のリージョンを持ち、世界140カ国で利用できる

性能

■ エンピューティング性能

Azure、AWSともに豊富なCPUコア数とメモリ容量を組み合わせた仮想マシン メニューを用意。

Azure … Azure 仮想マシン

→ <https://azure.microsoft.com/ja-jp/services/virtual-machines/>

AWS … Amazon EC2

→ <https://aws.amazon.com/jp/ec2/>

■ ストレージ性能

Nasuni ストレージベンチマークテスト (2015年)

AzureがAWSの2倍ほどの性能値を記録。

Azure … 書き込み：4.30MB/s 読み込み：9.60MB/s

AWS … 書き込み：2.24MB/s 読み込み：4.56MB/s

→ <http://www.nasuni.com/infographic-2015-state-of-cloud-storage/>

耐障害性・可用性 (1/2)

■ データの保護 (バックアップ)

Azureストレージ、Amazon S3/Glacierのどちらも、標準でデータを冗長化して保存し、障害から保護できる。

■ **Azure** … 同一リージョン内の「ローカル冗長」で3重、リージョンペアとの「地理的 (ジオ) 冗長」で6重に冗長化。
国内だけでも地理的冗長が可能。

AWS … 同一リージョンのアベイラビリティゾーン (AZ) を使用して、3箇所以上に冗長化。
別リージョン (例：東京ーソウル) 間でのレプリケーションも可能。

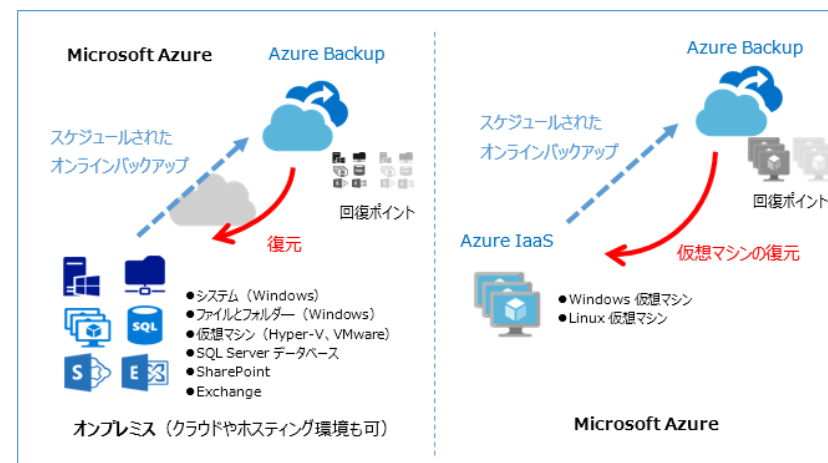
■ ※どちらも、ストレージサービスのスナップショット機能 (Azure Blob スナップショット、Amazon EBS スナップショット) を使用して、データ (仮想マシンの仮想ディスクのファイルを含む) のバックアップが可能。

■ Azure Backup について

Azure BackupはMicrosoft Cloudのデータバックアップと復元サービスで、オンプレミスのデータやアプリケーション、Azure IaaS上の仮想マシンを保護できる。クラウドはプライベートとハイブリッドにも対応する。

Azureデータセンター内で異なる3箇所にそれぞれデータのコピーを保存し、リモートにあるAzureデータセンター (リージョンペア) に別に3つコピーを保存するなど冗長な構成で、データはローカルで暗号化されてから、安全な通信を使って移動するなど高い安全性を持つ。元々はオンプレミスのファイルとフォルダーのバックアップサービスだったが、その後Windows Server、SharePointなどのシステムやアプリケーション、Azure IaaS上で稼働するWindows及びLinux仮想マシンのバックアップと復元に対応。

※AWSでは従来、Azure Backupに相当するサービスが無かったが、2020年1月よりAWS Backupの機能が強化され、対応するようになったが後塵を拝している



耐障害性・可用性 (2/2)

■ IaaS インスタンスの自動復旧

Azure ……仮想マシン単体レベルでは「自動復旧」として再起動あるいは他の物理サーバーへの再実装が行われ、複数台の仮想マシンでは「可用性セット」として単一障害ポイントを排除した高可用性クラスタを構成する仕組みを持つ。障害発生前の予測に基づく予防的な措置、ビッグデータを利用した障害分析なども行なっている。一部のリージョンでは、リージョン内で物理的に3つのゾーンに分離した「可用性ゾーン」も構成可能。

→ <https://azure.microsoft.com/ja-jp/global-infrastructure/availability-zones/>

AWS ……標準では、障害によりアベイラビリティゾーン (AZ) が利用不能になると、そこで動いていたインスタンスは停止する。ただし、Amazon CloudWatch の Auto Recovery 機能を使用することで、インスタンスを自動復旧するように構成することができる。

→ https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/AWSEC2/latest/UserGuide/ec2-instance-recover.html

■ IaaS インスタンスのアプリケーションレベルの可用性

仮想マシンで稼働するアプリケーションの、アプリケーションレベルの可用性については、オンプレミスで構築する場合と同様に、レプリケーション構成やフェールオーバークラスタ構成など、アプリケーションがサポートする高可用性の構成を利用者側で実装する必要がある

(Active Directory と DNS のマルチマスターレプリケーション (複数のドメインコントローラーの配置)、SQL Server AlwaysOn など)。

■ PaaS データベースの自動フェールオーバー

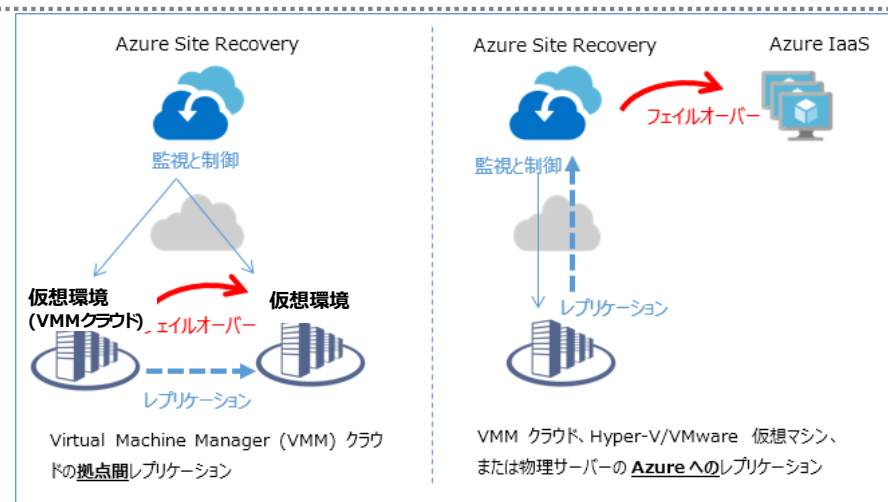
データベースレイヤについては、Azure SQL Database や Amazon RDS のような PaaS (Database as a Service : DBaaS と呼ぶこともある) を利用することで、障害発生時の自動フェールオーバーや地理的なレプリケーションを含む、高可用性データベースを、サービスとして利用するという方法がある。

✎ Azure Site Recovery について

Microsoft Azure 復旧サービスのもう1つの機能である Azure Site Recovery は、物理マシンと仮想マシン (VM) で実行中のワークロードをプライマリから二次拠点にレプリケーションする機能。プライマリサイトで障害発生時に二次拠点にフェールオーバーするため、ビジネスの継続性を確保できる。Azureリージョン間での Azure VM のレプリケート、オンプレミスの VM、Azure Stack VM、物理サーバーに対応する。

実装と管理が簡単で、統合されているので、新しい Azure 機能がリリースされると自動で更新される。Azureリージョン間で Site Recovery を有効にすることで規制遵守もできる。Azure Site Recovery は、2018年度のGartnerの「Disaster Recovery as a Service (サービスとしてのディザスタリカバリ)」でリーダーの評価を得ている。

※AWSでは従来、Azure Site Recoveryに相当するサービスが無かったが、2019年にCloudEndure社を買収し、CloudEndure Disaster Recoveryサービスとして、対応するようになった。



※ VMMクラウド…仮想化ホスト上のプライベートクラウドリソースを論理的に管理できる単位のこと



SLA

■ Azure、AWS とともに、主要サービスの SLA（サービスレベルアグリーメント）は99.9以上と高レベル

サービスの SLA とは、SLA で示された利用可能時間を確実に提供することを保証するものではない。SLA を満たさなかった場合は、サービスクレジット(サービス利用者が支払った合計請求額に対する一定割合の返金)が提供される。

Microsoft Azure		Amazon Web Services	
サービス	月間稼働率	サービス	月間使用可能時間割合
Azure 仮想マシン	99.95%以上*	Amazon EC2	99.99%以上
Azure ストレージ	99.9%以上（読み取りアクセス地理冗長ストレージ (RA-GRS) からの読み取りは、99.99%以上）	Amazon S3	99.9%以上
Azure SQL Database	99.99%以上（Basic 以上のプラン）	Amazon EBS	99.99%以上
Azure App Service	99.95%（Basic 以上のプラン）	Amazon RDS	99.95%以上
		Amazon Elastic Beanstalk	規定なし（使用されたEC2、S3に従う）

* すべての仮想マシンについて、同じ可用性セットに 2 つ以上のインスタンスが展開されている場合、99.95% 以上の SLA。Premium ストレージを使用する仮想マシンは、1 インスタンスで 99.9% 以上の SLA。

コンプライアンス

■ 国際基準

Azure、AWSはどちらも、欧州一般データ保護規制（GDPR）をはじめとしたプライバシーやセキュリティの法規制を遵守。

ISO 27001、ISO 27018、GDPR、HIPAA、FedRAMP、FISMA、PCI DSS、FIPS 140-2、SOC 1、SOC 2、SOC 3など。

→ <https://www.microsoft.com/ja-jp/TrustCenter/Compliance/default.aspx>

→ <https://aws.amazon.com/jp/compliance/>

※日本のコンプライアンス基準に関しても、日本マイナンバー法(Azure、AWS)、クラウドセキュリティ(CS)ゴールドマーク(Azure)、金融機関向けの FISC(Azure、AWS)など対応が進んでいる。

■ 準拠法・管轄裁判所

Azure … 日本の法律を準拠法とし、管轄裁判所は東京地方裁判所のため、日本の法律に準拠が必要なケースではAzureがやや有利。

AWS … 米国ワシントン州法を準拠法とし、管轄裁判所は米国ワシントン州キング郡の州裁判所または連邦裁判所。

※ただし、AWS Artifactにて管理コンソールより準拠法を日本法、管轄裁判所を東京地方裁判所に変更可能。

機能 (1/3)

■ Azure と AWS の主要なサービスの対応表（どちらも豊富なサービスメニューを提供しているが、Azure はオンプレミスとのハイブリッド利用シナリオに強みあり）

サービスの分類		Microsoft Azure	Amazon Web Services	説明
マーケットプレイス		Azure Marketplace	AWS Marketplace	自動構成されたサードパーティ製アプリケーションが手に入る
コンピューート	IaaS	Virtual Machines	Amazon EC2	Windows および Linux 仮想マシンのデプロイ、実行
	PaaS	App Service	Amazon Elastic Beanstalk	Web アプリやモバイル アプリの開発（オープンソース対応）、デプロイ、実行
	コンテナ	Container Instances	Elastic Container Service	Docker コンテナのデプロイとオーケストレーション
	マイクロサービス	Functions	AWS Lambda	サーバーレスでコードを実行できるコンピューティングサービス
		Service Fabric	—	クラウドとオンプレミスで一貫性のある分散アプリケーション環境
ストレージ	バッチ処理	Azure Batch	AWS Batch	大規模な並列・バッチジョブの実行
	オブジェクト	Storage-Block Blob	Amazon S3	クラウドサービスやアプリのためのオブジェクトストレージ
	ブロック	Blob Storage	Elastic Block Store (EBS)	非構造化データ（仮想マシンディスクを含む）対応のブロックストレージ
	仮想マシン向け	Disk Storage, Managed Disks		仮想マシン専用の永続ディスク
	ファイルサーバー	File Storage	Elastic File System	フルマネージドファイルサービス（Azure は SMBv3、AWS は NFSv4.1）
	ハイブリッド	File Sync	DataSync	オンプレミスのデータをクラウドに同期し保存
データベース (DBaaS)	アーカイブ向け	Azure Storage アーカイブ層	Amazon Glacier	低頻度アクセス、長期保存を想定した、低コストのアーカイブ用ストレージ
	リレーショナル DB	SQL Server （他に PostgreSQL, MySQL, MariaDB）	Amazon RDS （MySQL, Aurora など）	マネージドリレーショナルデータベース
	ハイブリッド	SQL Server Stretch Database	—	オンプレミスの SQL Server データベースを Azure に動的に拡張
	データウェアハウス	SQL Data warehouse	Amazon Redshift	マネージドデータウェアハウス
	NoSQL	Table Storage	Amazon SimpleDB	半構造化データストア
		Cosmos DB	Amazon DynamoDB	マネージドNoSQLデータベース
	キャッシュ	Redis Cache	Amazon ElastiCache	オープンソース Redis 互換のインメモリデータストア
仮想デスクトップサービス	データ変換	Data Factory	Amazon Data Pipeline	データの変換処理やデータの移動（転送）
		Windows Virtual Desktop	Amazon WorkSpaces	Windows Server ベースのデスクトップまたはデスクトップアプリへのアクセス

機能 (2/3)

サービスの分類		Microsoft Azure	Amazon Web Services	説明
データ分析・ビッグデータ・IoT	Hadoop	HDInsight	Elastic MapReduce (EMR)	ビッグデータ処理のためのマネージド Apache Hadoop サービス
	機械学習	Azure Machine Learning	Amazon Machine Learning	クラウドベースの機械学習アプリケーションの開発
	データ分析	Stream Analytics, Data Lake	Amazon Kinesis Analytics	大量の、多様なソースからのデータを分析するプラットフォーム
	IoT	IoT Suite	AWS IoT	IoT (モノのインターネット) デバイスをクラウドに接続し、データ収集・分析
ネットワーク	仮想ネットワーク	Virtual Network, VPN Gateway	Amazon VPC, VPC gateway	クラウドのプライベートネットワーク。オプションでオンプレミスと VPN 接続可能
	専用線接続	ExpressRoute	Amazon Direct Connect	クラウドデータセンターへの専用線接続によるプライベートリソースへの接続
	負荷分散	Load Balancer	Elastic Load Balancing	受信トラフィックの複数インスタンスへの自動負荷分散
	DNS	Azure DNS	Amazon Route 53	DNS ドメインのホスト
	ルーティング	Traffic Manager		着信トラフィックのルーティング
	バックボーン接続	VNet Peering	Amazon VPC Peering	クラウド上のプライベートネットワーク間のバックボーン経由の相互接続
セキュリティ・ID	ID 管理	Azure Active Directory	AWS Directory Service	クラウドアプリおよび IaaS 環境向けの Active Directory サービス
	キー管理	Key Vault	AWS Key Management Service	暗号化キーの作成、保管、保護
	多要素認証	Azure Multi-Factor Authentication	AWS Multi-Factor Authentication	ID 認証の多要素認証サポート
管理・監視・運用		Azure Portal	AWS Management Console	サービス管理ポータル
		Azure Resource Manager	Amazon CloudFormation	テンプレートやコマンドラインインターフェイスを使用したリソース管理
		Azure Automation	OpsWorks	クラウド上のインスタンスとオンプレミスのシステムをまたがるプロセス自動化
		Azure Monitor	Amazon CloudTrail	ログの収集と分析、構成変更の追跡
		Application Insights	Amazon CloudWatch	アプリケーションのパフォーマンスやリソース使用率、可用性の監視
コンテンツ配信・検索		Content Delivery Network (CDN)	Amazon CloudFront	グローバルに展開できるコンテンツ配信ネットワーク
		Media Services	Elastic Transcoder	オーディオやビデオメディアの大規模なエンコードとストリーミング配信
		Azure Search	Amazon CloudSearch	Web サイトやアプリのためのマネージド検索サービス
災害復旧対策 (Disaster Recovery as a Service : DRaaS)		Azure Backup	AWS Backup	オンプレミスと IaaS 環境に対応したクラウドベースのバックアップサービス
		Azure Site Recovery	CloudEndure Disaster Recovery	オンプレミスのプライベートクラウドのレプリケーションとフェールオーバー

機能 (3/3)

サービスの分類		Microsoft Azure	Amazon Web Services	説明
AI	会話型ユーザーインターフェイス	Cortana Intelligence Suite Microsoft Bot Framework + Azure Bot Service	Alexa Skills Kit	音声サービス開発、インテリジェントなボット構築
	音声認識	Bing Speech API	Amazon Lex Amazon Polly	音声からテキスト変換とテキストから音声変換、文脈の理解ができるAPI
	画像認識	Computer Vision API	Amazon Rekognition	画像分析、テキスト読み取りなど必要なデータの抽出

購入・決済

- Azure と AWS には、購入・決済方法に以下のような違いがある。

	Microsoft Azure (主要なサービス共通)	Amazon Web Services (EC2の場合)
料金体系	- 従量課金 - リザーブドインスタンス：割引料金で全額前払い - ハイブリッド特典：移行コストを大幅に削減	- オンデマンド：従量課金 - リザーブドインスタンス：全額前払い、一部前払い、前払いなしの3種類 - ボリュームディスカウント：使用が増えるとGBあたりの料金が下がる - Dedicated Hosts（専用物理ホスト）：アクティブなDedicated Hostに時間単位で課金
支払方法	- クレジットカードによる引き落とし - 請求書による銀行振り込み - リセラー経由	- クレジットカードによる引き落とし - 請求書による銀行振り込み … AWS 口座への海外送金 - APN (AWS Partner Network) パートナー経由
支払通貨	日本円 (¥) … 世界 24 の通貨に対応	米ドル (USD) … 日本円を含む13通貨も選択可能

試用・評価

Azure・AWS共通して、**12 か月間**は最低限のスペックにて**代表的なサービス**を利用可能

- ✓ **Azure は最初の 30 日間、22,500円**相当のクレジット枠で**フル機能**を利用可能
 → Azure: <https://azure.microsoft.com/ja-jp/free/> → AWS: <https://aws.amazon.com/jp/free/>



サポート

- Azure と AWS は、それぞれ以下のような無料・有料のサポートサービスを提供。

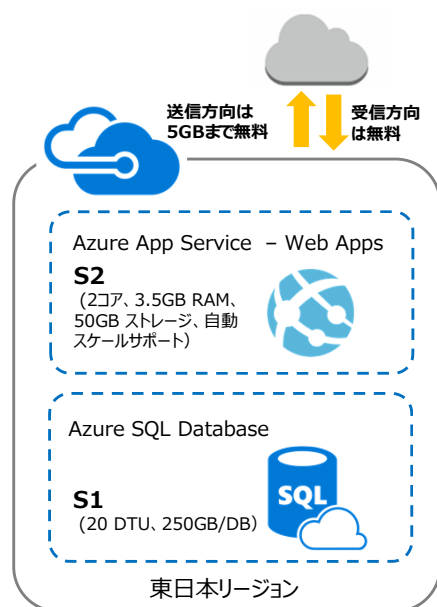
	Microsoft Azure					Amazon Web Services			
プラン	標準提供	Developer	Standard	Professional Direct	Premier	ベーシック	開発者	ビジネス	エンタープライズ
フォーラム	○	○	○	○	○	○	○	○	○
技術サポート	サービス問題のみ	○（営業時間内）	○（事業への影響度によって対応時間に違いあり）	○（事業への影響度によって対応時間に違いあり）	○（事業への影響度によって対応時間に違いあり）	サービス問題のみ	○（営業時間内）	○	○
最短応答	—	8時間以内	1時間以内	1時間以内	15分以内	—	12時間以内（急ぎの場合）	1時間以内（発生中で影響の大きな障害の場合）	15分以内（非常事態の場合）
電話対応	—	—	○	○	○	—	—	○	○
月額料金	無料	3,248円	33,600円	112,000円	要問合せ	無料	29 USD～	100 USD～	15,000 USD～

コスト比較

- 低コストで安全に Web アプリを公開する場合の試算例。

Azure 年額 351,540 円(税抜)

月額：	29,295 円
内訳	
App Service	19,296 円
SQL Database	3,736 円
ネットワーク	3,015 円
サポート	3,248 円



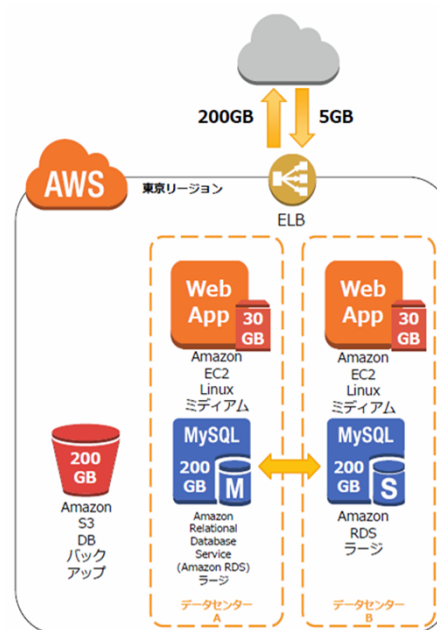
【構成のポイント】

- すべて PaaS での構成
アプリケーションとデータの管理のみ
- SQL Database はデータセンター内で3つのレプリケーションを作成
- SQL Database は標準でバックアップされており、ストレージはデータベースサイズの2倍まで無料
(250GBのデータベースの場合、500GBまでのバックアップストレージが無料で利用可能)
- 課金と障害に関するサポートのみ

AWS 年額 451,596 円(税抜)

(約 4,220.52 ドル、1ドル107円で計算)

月額：	351.71 ドル
内訳	
サーバー関連	289.85 ドル
ストレージ	5.00 ドル
ネットワーク	27.86 ドル
サポート	29.00 ドル



【構成のポイント】

- データセンターレベルの冗長構成
- DBデータはS3にバックアップ
- マスターDB障害時は自動的にスレーブへ切替
- 24時間365日の電話サポート
- リザーブドインスタンスを活用

ほぼ同一構成で **Azure** は **AWS** に比べ約 **22%** のコストダウンを実現。PaaS だから構築期間も短縮。

※AWSは既定で米ドル請求となり、請求書作成日のレートで現地通貨に換算されます

Azure vs AWS 比較表

	Microsoft Azure	Amazon Web Services	備考
シェア	○	◎	世界、日本国内ともに、シェアは AWS が圧倒的
市場評価	◎	○	IaaS、PaaS、SaaS のすべての分野で「リーダー」的存在はマイクロソフトだけ
データセンター	◎	◎	Azure、AWSともに国内でディザスタリカバリーが可能 (ただし AWS の大阪ローカルリージョンは招待制で審査あり、2021年に大阪リージョンを新設予定)
性能	◎	◎	コンピューティングは AWS、ストレージは Azure が強いが、コスト効率も含めた検討が必要
耐障害性・可用性	◎	◎	可用性、SLA は同等であるが、オンプレミスを含めた災害復旧対策機能は Azure だけ
コンプライアンス	◎	◎	Azure、AWS共に国内法に準拠、東京地方裁判所の管轄
機能	◎	○	クラウドの機能は同等であるが、オンプレミスを含めたハイブリッド環境は Azure に強み
購入・決済	◎	◎	Azure、AWSともに日本円決済に対応
試用・評価	◎	○	Azure、AWSともに 1 年間試用可能。Azure はさらに 1 か月間はフル機能を利用可能
サポート	○	○	サポート内容、料金は同等
コスト	◎	○	PaaS の活用で、Azure は大幅に低コスト。オンプレミスとの共通技術もコストを抑制

まとめ

- Azure の PaaS を上手に組み合わせると、AWS よりも大幅に低コストになる場合がある。
- クラウドの機能・性能面では、Azure と AWS に大きな差はない。ハイブリッド利用に関しては、Azure はさまざまなシナリオに簡単に対応可能。
- Azure は、日本国内だけでデータの地理的冗長化やディザスタリカバリー構成が可能。国外のデータセンターの利用を望まない企業に最適。AWSも2018年より招待制で審査のある大阪ローカルリージョンにて対応。(2021年に東京リージョンと同等の大阪リージョンを新設予定)。
- 準拠法・管轄裁判所、日本円決済、サービスの日本語化など、日本企業への対応は Azureが先行したが、AWSも対応を進めている。

? 問い合わせ先

Microsoft Azure に関するご質問、お問い合わせは、下記にて承ります。

SB C&S株式会社

Azure 相談センター

お問い合わせ: <https://licensecounter.jp/azure/contact/>

Webサイト: <http://licensecounter.jp/azure/>